

---

# 正義の名のもとに

冬桜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

正義の名のもとに

### 【コード】

N3642L

### 【作者名】

冬桜

### 【あらすじ】

上と下。壊しきれない分厚い壁がある。

バタン

冷蔵庫を閉める音だ。しかし、必要以上に大きい音であったため、冷蔵庫の前に立つ人物を見た。

「あああああああああ」

何か聞こえてくるけど、言葉になってない。あと、結構怖い。放って置く訳にもいけないので、我が家の姉に声をかける。

「どうしたん？」

声は聞こえてるだろうに、こっちを見向きもしない。

なるほど、なるほど。放って置いたらいいのかと考えを改めようとした。けれど、改めてはいけなかつたらしい。当事者だからだ。

「冷蔵庫の中にデザートがあつたでしょ？」  
ギクツ。

実際には、体と思考が止まったただけだろうに、 unnecessary 擬態音が聞こえた。

「楽しみに、してたんだけど？」

幽霊やら幽鬼へのジョブチェンジを勧めたくなるほど、その目は狂気に満ちていた。

「い、いや、それは母さんが・・・姉ちゃんを、その」

自分でも何を言ってるのか分からない。まるで、母さんが姉ちゃんを食べたように聞こえるじゃないか。

「そう・・・母さんがいって言ったの・・・」

必死の弁解は一応聞き入れてくれたらしい。嫌な汗がとめどなく流れてく。雰囲気は和らいだように思えたが、目が変わってない。

「食べた事にはかわりないよね」

フフツ。怪しい笑みとともに声をかけられる。

「さあ、おとなしく財布を渡しなさい。抵抗しない方が、痛い思いはしなくてすむから」

「い、嫌だ！！値段分は払うから金額をいってください！！」

「ダメダメ。世の中慰謝料つてもんがあんのよ。きつちり払ってもらうから。さあ、おとなしく渡せ！！」

いつの間に目の前にいたのか。叫びと同時に上段を狙う蹴りが放たれる。

「ー！ー！」

顔の横を通り過ぎる。相当、危なかった。この凶暴な姉は蹴りが異様にはやい。このままでは、心身ともにKO負けしてしまう。

次はまわし蹴り。わき腹を狙うその蹴りを腕を出してガードする。とにかく母さんがくるまで持ちこたえるか、何か打開策を考えないと。非がこちらにあるとしても、あまりにも残酷な仕打ちを受けてしまう。

腹をまっすぐに狙う蹴り。同じく腕によりガードする。威力自体は弱かった。そう思った瞬間、足を思いっきり蹴られた。

ガッ

痛い。ああ、慰謝料もらうのはこっちじゃないのかな。

「正義は我にありってね。しばらく動けないんじゃない？」

その通りです。姉ちゃんから逃げるのは無理だと思います。

「金額言ってくれたら渡すからっ。どうかお見逃してください！！」

一拍。

「へえー。そーいんなに今日は財布が重いんだ」

あの笑みを満たしているのは狂気が狂喜か。どちらにせよ、運命は残酷だ。

「分かったなら開放してくれよ。いくら悪いのがこっちだからって、やっていいことと悪いことがあると思います！！」

うっっ。

非難しているつもりが意見しているような口調になってしまった。絶体絶命だ。

間違いない向こうが悪なのに・・・それを正す人物が不足している。

・・・

そう、今じゃこっちが被害者なんだ。

「弱いものいじめなんか意味ないだろ？弱者だから搾取するのは間違ってるって」

「まあね。あまりいい事じゃないと思う」

あまりじゃないだろっ。心の中で叫ぶにとどめておく。しかし、少しは譲歩してくれるかもしれない。

「暴力で人を脅すなんて正義なはずがない！！」

さあ、少しは良心が残っているといいのだけど。

「んー。これじゃ、こっちが悪者みたいだもんね」  
よしっ。

「けど、正義なんて人によって違って当然じゃない。だから、今はあたしが正義」

満面の笑みとともに最後の蹴りが放たれる。

それを見ながら思った。

世の中って理不尽だ。

数分後、床に倒れ伏しているのを見て、母さんは「あら」と首を傾げていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3642/>

---

正義の名のもとに

2011年1月28日11時24分発行